

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
104-17	高等学校	福祉	介護過程	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
7 実教	福祉 706	介護過程		

1. 編修の基本方針

教育基本法第二条の各号の目標を達成するため、それぞれ以下の点を基本方針とし本書を編修した。

教育基本法第二条	方針
第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健全な身体を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に沿って、基礎・基本の内容を本文で扱い、さらに補足的な内容や解説、事例などを側注やかこみで扱うなど、幅広い内容を取り上げた。 ・介護従事者の職業倫理として、日本介護福祉士会倫理綱領を取り上げた。
第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・介護の目的は尊厳の保持と自立支援であり、介護の基本原理は利用者主体であることをについて理解が深められるようにした。 ・介護福祉士をめざす生徒や介護に興味をもっている生徒が、介護に対して魅力ある仕事だと思えるような記述になるよう配慮した。
第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・介護職は、主体的に考えて行動する習慣をつけることが求められていることを示した。 ・高齢者や障害のある人の住み慣れた地域での暮らしを支えるために、自治会やボランティアなど地域の人々を含め多職種が連携して地域ケアを担っていることを取り上げた。
第4号 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者虐待について取り上げ、虐待を防止するための支援が必要であることを理解できるようにした。

<p>第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・介護過程の主体は利用者であり、介護が必要となっても、その人の生活習慣・文化・価値観は尊重されなければならないことを取り上げた。 ・利用者を理解し、生活を支援する際には、高齢者が歩んできた時代や文化を知ることが大切であるため、昭和元年から現代までのできごとに関する年表を掲載した。
---	---

2. 対照表

図書構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
巻頭・巻末の カラーページ	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の理解を深められるよう、高齢者が歩んできた時代や文化についての年表を掲載した（第5号）。 ・介護過程の展開の流れについて理解を深められるように、事例の掲載ページを参照しやすいように示した（第1号）。 ・介護福祉士として踏まえるべき倫理として、日本介護福祉士会倫理綱領を取り上げた（第1号）。 	カラーページ 1-2, 5-6 カラーページ3 カラーページ4
編とびら	<ul style="list-style-type: none"> ・編の冒頭に章ごとのねらいを示すことで、学習に対する興味・関心を喚起させ、自ら学ぶ姿勢を養えるようにした（第2号）。 ・章ごとに〇×クイズを入れることで、学習の導入として興味・関心を持てるようにした（第2号）。 	p. 7, 21, 83, 105
各節	<ul style="list-style-type: none"> ・節の冒頭にねらいを示すことで、学習に対する興味・関心を喚起させ、自ら学ぶ姿勢を養えるようにした（第2号）。 ・学習上で重要な用語についてはゴシック体を使うことによって強調し、丁寧に解説をすることで、幅広い知識と教養が身につけられるようにした（第1号）。 	全般
考えてみよう やってみよう 調べてみよう	<ul style="list-style-type: none"> ・本文の内容に関するテーマについて深く考えたり、グループで話しあったり、実際にやってみたりすることにより、自他を重んじ、協力して社会の形成に参画する態度を養うことができるようにした（第2・3号）。 	p. 11, 15, 23, 24, 26, 28, 43, 48, 55, 61, 75, 93, 96, 97 など
豆知識	<ul style="list-style-type: none"> ・本文の理解を深める豆知識を掲載し、幅広い知識と教養を身につけることができるようにした（第1号）。 	p. 19, 22, 29, 34, 35, 44, 45, 46, 47, 48, 49, 50, 53, 58, 70, 71, 72 など
コラム	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な事例等を通して、幅広い知識と教養を身につけられるようにした（第1号）。 	p. 19, 29, 46, 51, 63, 66, 71, 109, 112, 113, 120, 121 など
資料	<ul style="list-style-type: none"> ・本文の理解を助ける資料を掲載し、幅広い知識と教養を身につけることができるようにした（第1号）。 	p. 10, 24, 25, 43, 53, 54, 55, 59, 63, 73, 110 など

編末問題	<ul style="list-style-type: none"> 本文で学んだ知識が身についたかどうかを確認する問題と、さらに理解が深められる問いを扱った（第1・2号）。 	p. 20, 82, 104, 122
------	--	---------------------

●編ごとの特色

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
1編 介護過程の意義と役割	<ul style="list-style-type: none"> 介護福祉士の法的定義の変遷について解説し、介護福祉士の業務について理解が深められるようにした（第2号）。 介護福祉士には、利用者一人ひとりのQOL（生活の質）の向上をめざした科学的で根拠にもとづいた介護を展開していく専門性が求められていることを示した（第2号）。 自立と自律について取り上げるとともに、その人の立場になって考え、その人の意思をくみ取りながら支援にあたるという介護職との関係を通した自立についての考え方を示した（第2号）。 介護を必要とする状況になったとしても、その人が大事にしている価値観や生活様式、生活習慣を大きく変化させない支援の方法を考えることが大切であることを示した（第2号）。 ICF（国際生活機能分類）の活用により利用者の全体像を理解できるようになるなど、ICFを活用することの重要性について理解が深められるようにした（第1号）。 	p. 8-9 p. 9 p. 10-11 p. 17 p. 18-19
2編 介護過程の展開	<ul style="list-style-type: none"> 介護職として介護過程を展開することができるよう、具体的な事例を用いて丁寧に解説をした（第1・2号）。 社会福祉士及び介護福祉士法の秘密保持義務について取り上げ、個人情報扱いについて十分に留意することができるようにした（第2・3号）。 人はさまざまな人々のかかわりのなかで生活が営まれ、人々とのかかわりには、家庭や社会などで何らかの社会的役割を果たすといった特徴があることを取り上げた（第2・3号）。 利用者の状況によっては公的なサービスだけでなくインフォーマルな地域の身守りも必要とされていることを取り上げ、介護職だけでなくボランティアや近隣住民などの支援が必要であることを理解できるようにした（第2・3号）。 	全般 p. 29, 63 p. 51 p. 62
3編 介護過程の実践的展開	<ul style="list-style-type: none"> ICFの視点を活用した情報の関連づけについて、ICFの図を使用し、視覚的に理解を深められるようにした（第1号）。 障害のある人の事例の中でボッチャを取り上げ、ボッチャがヨーロッパで考案されたスポーツであることや、パラリ 	p. 90 p. 98-101

	<p>ンピックの正式種目となっていることから，外国や障害者スポーツに関心が持てるようにした（第5号）。</p>	
<p>4編 介護過程とチームアプローチ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ チームを形成する主な専門職について解説し，多職種連携について理解が深められるようにした（第2・3号）。 ・ 地域でシニアボランティアによる買い物支援が実施されていたり認知症サポーター養成講座が開催されたりしていることを取り上げ，自分にできることはないか考えられるようにした（第3号）。 	<p>p. 107, 108 など</p> <p>p. 121</p>

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

学校教育法第五十一条の各目標を達成するため、以下の点に留意し、本書を編修した。

学校教育法第五十一条	
一 義務教育として行われる普通教育の成果をさらに発展拡充させて、豊かな人間性、創造性及び健やかな身体を養い、国家及び社会の形成者として必要な資質を養うこと。	中学校における学習内容を踏まえ、丁寧な記述、平易な文章表現、豊富な図などを盛り込んで、介護過程を実践的に学べるように配慮した。また、高齢者の生活を支える地域包括ケアシステムについて取り上げた。
二 社会において果たさなければならない使命の自覚に基づき、個性に応じて将来の進路を決定させ、一般的な教養を高め、専門的な知識、技術及び技能を習得させること。	介護福祉士など介護に関する資格をめざす生徒が専門科目として介護過程を学べるよう、具体的な事例を取り上げた。また、専門的な知識、技術及び技能を習得できるようにした。また、将来の介護従事者としての進路について具体的にイメージできるよう配慮した。さらに、介護従事者とともに支援にかかわる介護支援専門員（ケアマネジャー）や理学療法士・作業療法士、看護師などの専門職を紹介し、将来の進路選択の参考になるようにした。
三 個性の確立に努めるとともに、社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養うこと。	介護に関わる社会的状況や課題について具体的に触れ、社会の構成員としてどのような課題解決の方向があるのか、考えられるようにした。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
104-17	高等学校	福祉	介護過程	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
7 実教	福祉 706	介護過程		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

介護過程に関する知識と技術を身に付け、地域での継続した生活を支援する介護過程の展開に必要な資質・能力を育成することができるよう以下の点に配慮した。

- (1) 各節に学習のねらいを示すことにより、学習の要点を理解しやすいようにした。
- (2) 図や写真など豊富な資料を掲載し、学習内容の理解を深められるよう工夫した。
- (3) 本文にはユニバーサルデザインフォントを使用し、読みやすくなるよう配慮した。また、外国人生徒が増えつつある現状と多様性への対応を考慮して、原則として小学校学習指導要領の学年別漢字配当表の漢字以外にはふりがなをつけて、多様な生徒が理解できるようにした。
- (4) 全編にわたって、かこみなどで具体的な事例を取り上げて、より具体的に介護の現場がイメージしやすいように工夫した。

第1編 介護過程の意義と役割

- (1) 介護保険制度におけるケアプラン（介護サービス計画）と介護職が作成する介護計画の関係について理解が深められるよう、丁寧に解説をした。
- (2) 介護過程の基本的な考え方と介護過程の展開のプロセスについて理解し、各段階を解説する第2編につなげられるようにした。

第2編 介護過程の展開

- (1) 介護過程の展開のプロセスの4段階に合わせて、「アセスメント」「介護計画の立案」「介護計画の実施」「介護計画の評価」の章に分けて解説した。
- (2) 第1章から第4章にかけて、ひとつの事例をもとに介護過程を展開しながら各段階について解説し、介護過程について理解が深められる構成にした。
- (3) 事例をもとに介護目標と具体的な支援内容・支援方法を設定する「やってみよう」を入れ、実際にやってみることで理解を深められるように工夫した。

第3編 介護過程の実践的展開

- (1) 第1章は、アセスメントの実際について「情報収集」と「情報の解釈・関連づけ・統合化」に節を分けて解説した。また、第2章は、介護過程の展開の実際について1節は主に「介護計画の立案」の部分について丁寧に解説し、第2節は主に「介護計画の評価」の部分丁寧に解説した。
- (2) 多様な事例についての介護過程の展開が学べるよう、介護老人福祉施設で生活する高齢者、介護老人保健施設で在宅復帰をめざす高齢者、障害者支援施設で医療的ケアを受けながら生活している男性の事例を用いて解説した。

第4編 介護過程とチームアプローチ

- (1) 第1章ではチームアプローチの意義について学び、第2章では施設介護と在宅介護のチームアプローチの事例を扱い、具体例から理解が深められるようにした。
- (2) 施設介護のチームアプローチの事例では、介護支援専門員や介護職、医師・看護師などの専門職の役割と連携について、在宅介護のチームアプローチの事例では、地域包括支援センター、小規模多機能型居宅介護事業所、地域・行政などの役割と連携について事例を用いて具体的に解説した。

2. 対照表

	図書の構成・内容	学習指導要領の内容	箇所	配当時間
1編 介護過程の意義と役割	1章 介護職の役割	(1)	p. 8-13	16
	2章 介護過程の意義	(1)	p. 14-19	
2編 介護過程の展開	1章 アセスメント	(2) ア,イ	p. 22-43	78
	2章 介護計画の立案	(2) イ,ウ	p. 44-61	
	3章 介護計画の実施	(2) エ	p. 62-71	
	4章 介護計画の評価	(2) エ	p. 72-81	
3編 介護過程の実践的展開	1章 アセスメントの実際	(3)	p. 84-91	26
	2章 介護過程の実際	(3)	p. 92-103	
4編 介護過程とチームアプローチ	1章 介護過程とチームアプローチの意義	(4) ア	p. 106-113	20
	2章 介護過程とチームアプローチの実際	(4) イ	p. 114-121	

計 140